

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	道路建設課
職	課長
氏名	畠山 邦夫

組織の使命・役割	何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か
「個性、交流、安心のふるさとづくり」を目指して、交通基盤を整備することにより、 ①広域交流の促進 ②さらなる誘客促進 ③安全・安心の確保 を図る。	



組織の目標	使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か
(定性的目標)	何をどのような状態にしたいか
①人との交流を盛んにする活力あるみちづくり:隣県や三大都市圏との広域交流圏の形成や、時間距離の短縮による県土の更なる一体化等を図る。 ②魅力ある観光資源を活かす「おもてなし」のみちづくり:観光資源として「みちの価値」を高めるとともに、能登・金沢・加賀各地域を巡る回遊性を向上する。 ③生命・生活を守る強くしなやかなみちづくり:生活道路の安全性と走行性の向上を図る。	

(定量的目標)	具体的な指標、目標値を設定する				
目標とする成果指標	現行値	年(度)	目標値	年(度)	目標値の設定根拠(他県との比較など)
①輪島～名古屋間の所要時間	250 分	H27 年度	220 分	H37 年度	石川県長期構想
①能登地域から金沢への通勤可能人口の割合 (上段:1時間圏、下段:1時間半圏)	59 % 80 %	H27 年度	80 % 90 %	H37 年度	石川県長期構想
②観光客の道路利用満足度	7 割	H27 年度	8 割	H37 年度	石川県長期構想
③狭隘な生活道路の安全・安心な通行確保率	6 割	H27 年度	8 割	H37 年度	石川県長期構想



28年度に重点的に取り組むべき課題	左記の具体的な内容を記載する
①高規格幹線道路網の整備促進	能越自動車道 輪島道路及び田鶴浜七尾道路の整備促進を要望する。
③広域幹線道路の整備	国土交通省、隣県(富山、福井、岐阜県)と緊密な連携を図り、「ダブルラダー輝きの美知(みち)」構想の実現に向けた幹線道路整備を進める。
②道の駅や並木等のおもてなしの道路整備	市町と連携した「道の駅」の整備や、のと里山海道等の並木の整備を進める。
③生活道路の整備	1.5車線の道路整備(※1)等の導入による住民ニーズに応じた効果的な整備を進める。

(※1) 1.5車線の道路整備:比較的交通量の少ない道路において、待避所の設置や見通しの悪いカーブ区間の改良といった小規模な工事を行うことで、速やかに走行性と安全性の改善を図る整備手法